



# 第69期 報告書

2018年4月1日～2019年3月31日



日本アビオニクス株式会社

証券コード：6946

## ○ 株主の皆様へ



### Contents

株主の皆様へ	1
セグメント別の概況	3
トピックス	5
連結財務ハイライト	6
連結財務データ	7
株式の状況	9
会社の概要	10

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

私、竹内正人は、2019年6月25日をもって、代表取締役執行役員社長に就任いたしました。株主の皆様への早期復配を目指し、努力してまいります。ここに第69期（2018年4月1日から2019年3月31日）の事業の概況等についてご報告申しあげます。

### 【自動車部品市場向けの新製品投入を進めるなどの諸施策を展開しました】

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、宇宙・防衛市場では、引き続き防衛省の海外調達が増加し、国内調達は低調に推移しました。民需市場では、スマートフォン市場の低迷や、米中貿易摩擦の影響により大きく悪化しました。

このような状況の中、当社グループは、原価改善および諸経費の削減に努めるとともに、自動車部品市場向けの新製品投入を進めるなどの諸施策を展開しました。

なお、東海旅客鉄道株式会社（以下、JR東海といいます。）のリニア中央新幹線計画に協力するため、プリント配線板の製造を分担している連結子会社の山梨アビオニクス株式会社（2018年10月1日付で当社が吸収合併）の敷地の一部をJR東海に譲渡するにあたり、建物等の解体および更地化の工事を進めておりましたが、これらの工事は当期で完了しました。

### 【原価改善および諸経費の削減に努めたものの営業損益および経常損益は損失となりました】

当期連結業績は、原価改善および諸経費の削減に努めたものの、売上高が減少したことから、営業損益および経常損益は損失となりました。親会社株主に帰属する当期純損益は、山梨アビオニクス株式会社の建物等の解体および更地化工事完了による敷地の一部のJR東海への譲渡に伴い、受取補償金等として24億34百万円を特別利益に計上したものの、建物の解体に伴う固定資産除却損等として特別損失を計上し、更に繰延税金資産の取崩し等により法人税等を計上したことから減少いたしました。

### 【当期連結業績】

単位：百万円

	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に帰属する 当期純損益
当期 (前期比)	17,460 (6.7%減少)	△70 (6億38百万円改善)	△155 (6億9百万円改善)	22 (5億84百万円減少)

### 【競争力強化および差別化をはかり、成長を目指してまいります】

今後の見通しにつきましては、米国の政策動向や中国経済の成長鈍化、各国の保護主義的な動き、地政学リスクの懸念など、当社グループを取り巻くマクロの社会・経済環境は、不確実性が常態となっております。

このような状況の中、当社グループは2020年までの中期経営計画を発表し、計画達成を目指してまいりました。

しかしながら、当社グループに関連する宇宙・防衛市場では、防衛省の海外調達増加により国内調達が今後も低調に推移することが予想されるとともに、民需市場では、米中貿易摩擦に端を発する世界経済の減速により、景気回復の時期が不透明な状況にあることから、連結財務ターゲットを見直すこととしております。基本方針とした「顧客価値経営の推進」はそのままに、情報システムと電子機器の2つのセグメントにおいて競争力強化および差別化をはかり、成長を目指してまいります。

### 【次期連結業績予想<sup>(注)</sup>】

単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
次期業績予想 (前期比)	17,800 (1.9%増加)	200	150	100

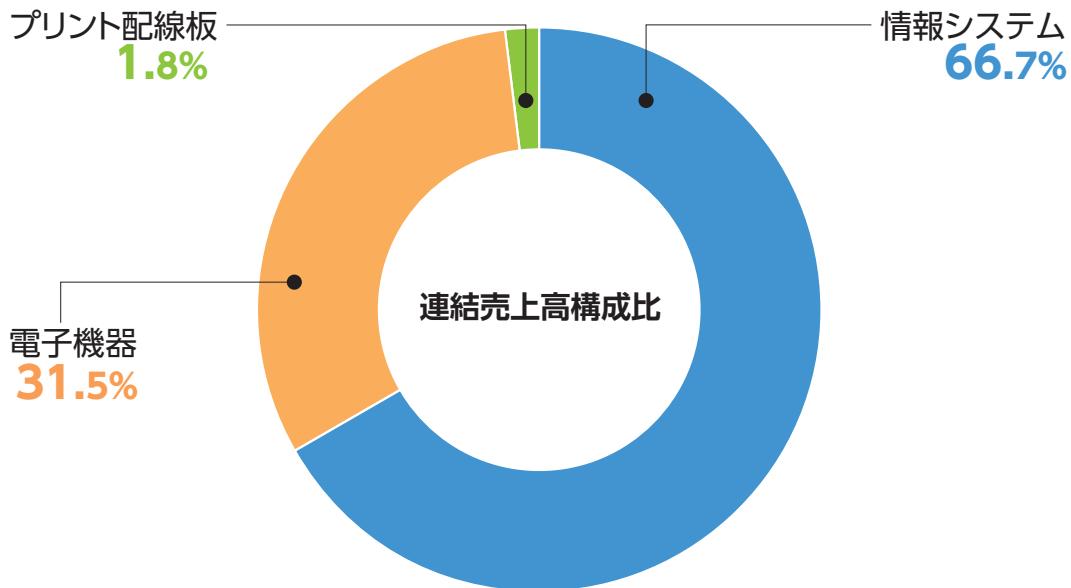
(注) 業績予想の数値は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

2019年6月

代表取締役執行役員社長

竹内正人

# ○ セグメント別の概況



## 情報システム

連結売上高

**116億41百万円**

(前期比20.3%増)

- 防衛省の国内調達が低調に推移している影響はあるものの、期首受注残高が高水準であったことから増加しました。

セグメント損益

**20百万円**

(前期比7億95百万円改善)

- 一部の不採算案件により原価悪化があったものの、売上高の増加、諸経費の削減により改善しました。



表示・音響装置



指揮・統制装置

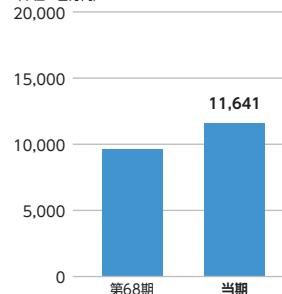


ハイブリッドIC

主要製品：表示・音響関連装置、誘導・搭載関連装置、指揮・統制関連装置、ハイブリッドIC

## 情報システム連結売上高推移

(単位：百万円)



## 電子機器

連結売上高

**54億99百万円**  
(前期比22.3%減)



• 赤外線機器はほぼ横ばいに推移しました。接合機器は、国内は自動車部品市場向けが増加したものの、海外はスマートフォン市場の低迷や、米中貿易摩擦の影響が想定以上であったことから、情報機器向けが落ち込み、全体として大きく減少しました。

セグメント損益

**30百万円**  
(前期比5億51百万円悪化)



• 諸経費の削減に努めたものの、売上高の減少により悪化しました。



InfReC  
TS600シリーズ



無線式耐圧防爆型  
サーモグラフィシステム



大容量インバータ溶接電源  
NRW-IN16K4&10kN溶接ヘッド

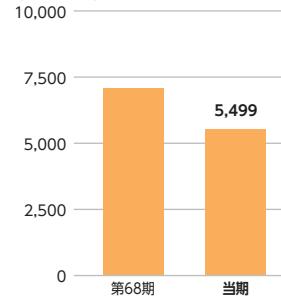


変位制御パルスヒート  
TCW-DP100

主要製品：接合機器、赤外線機器

### 電子機器連結売上高推移

(単位：百万円)



## プリント配線板

連結売上高

**3億20百万円**  
(前期比83.6%減)



セグメント損益

**△1億22百万円**  
(前期比3億94百万円改善)



• 当期の顧客の売上検収の完了により事業終息しております。山梨アビオニクス株式会社の敷地については、建物等の解体および更地化の工事を完了し、その一部についてJR東海へ譲渡が完了しました。

主要製品：なし

### プリント配線板連結売上高推移

(単位：百万円)



### ▶ 金属温度計測用赤外線サーモグラフィカメラで品質改善に貢献

アルミニウムなどの金属は、反射の影響を受け汎用のサーモグラフィでは正確な温度計測は困難でしたが、特殊計測赤外線サーモグラフィカメラ「InfReC TS300SW」では、金属の正確な温度計測を実現しました。その技術を用いて非接触で溶融状態の金属や焼入れ後の金属の温度分布管理を行い、品質改善に貢献しています。



InfReC TS300SW

### ▶ 高精度温度計測赤外線サーモグラフィカメラで材料の品質向上に貢献

高速サンプリング (5000Hz)、高感度 ( $\pm 0.025^{\circ}\text{C}$ )、高精度 (最小分解能 $5\mu\text{m}$ ) でエリアの僅かな温度差を捉えて可視化する赤外線サーモグラフィカメラ「Thermo HAWK H9000」は、CFRPやフィルムなど材料の非破壊検査に活用できます。さらにロックイン (外部から対象物に加える負荷に同期して計測する) 解析を付加することで、より微小な温度差 ( $0.001^{\circ}\text{C}$ ) を捉え、半導体の故障解析や、各種材料のクラック、剥離、接着異常等を検出して品質向上に貢献しています。



Thermo HAWK H9000

### ▶ 自動車部品組立における生産効率改善と品質管理向上に貢献

自動車市場に注力し、超音波接合機器「SW-Dシリーズ」を5機種投入しました。当社独自の制御方式により高速・安定溶着を実現し、軽量化を目的として樹脂化がすすむ自動車の内外装部品の生産効率を改善するとともに、豊富なモニタリング機能とイーサネット対応により、トレーサビリティを容易化して品質管理を向上し、「確かなものづくり」に貢献しています。



SW-Dシリーズ

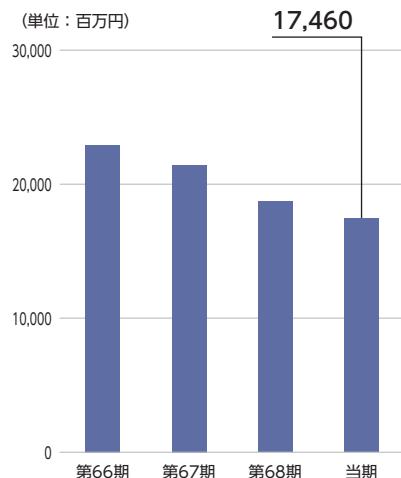
### ▶ 異種材料の接合品質向上で自動車部品の軽量化に貢献

自動車は、高機能化および電動化が進むにつれ、ハーネスの利用が増加して重量が増えています。その対策として、軽量化を目的にハーネスの材料が銅からアルミに変化しています。超音波溶接機「SW-3500シリーズ」は、アルミ線と銅端子の異種材接合において、従来の超音波溶接機では計測できなかった接合時のエネルギーを独自センサでモニタリングして接合強度を判定することにより、接合品質を向上させ、自動車部品の軽量化に貢献しています。

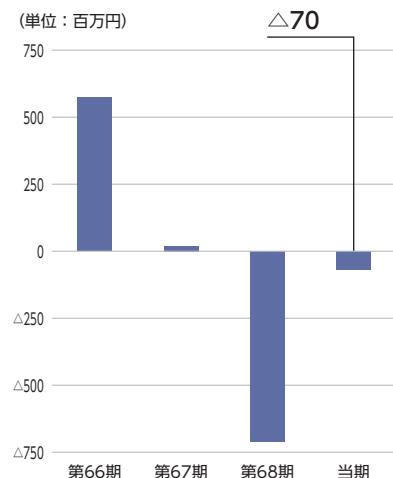


SW-3500シリーズ

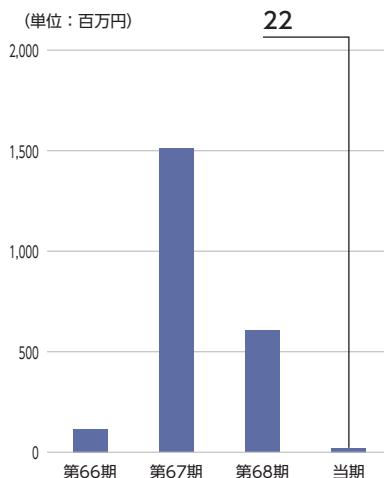
売上高推移



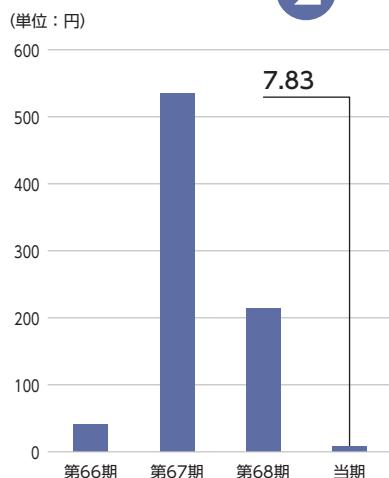
営業損益推移



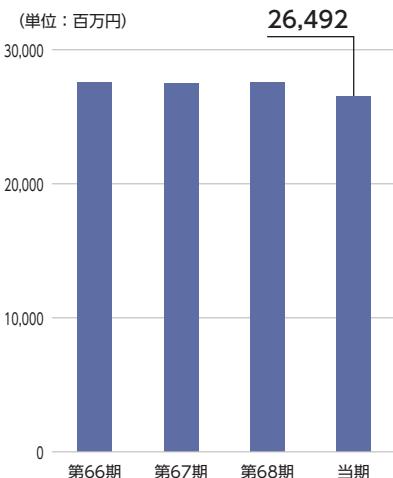
親会社株主に帰属する  
当期純損益推移



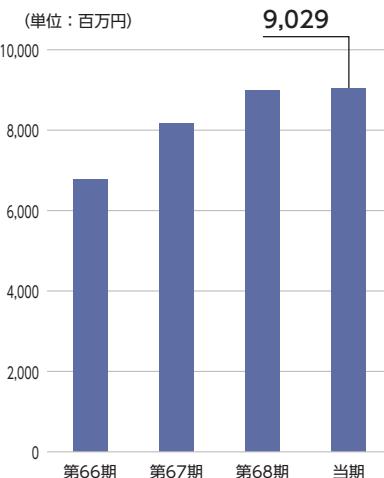
1株当たり当期純損益推移



総資産推移



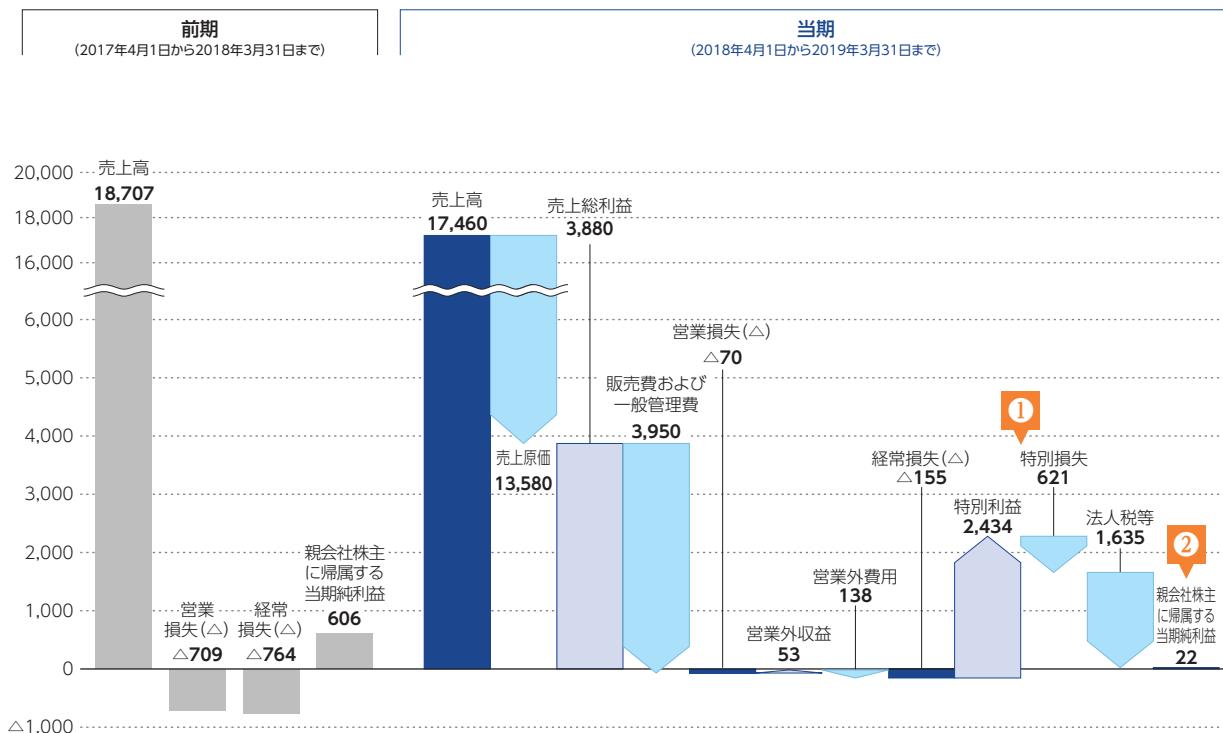
純資産推移



(注) 当社は2017年10月1日付で普通株式につき10株を1株とする株式併合を行っております。第66期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純損益を算定しております。

# ○ 連結財務データ

## 連結損益計算書の概要 (単位：百万円)



### POINT

#### ① 特別利益・特別損失

プリント配線板の製造を分担していた連結子会社の山梨アビオニクス株式会社の建物等の解体および更地化の工事完了による敷地の一部のJR東海への譲渡に伴い、受取補償金等として24億34百万円を特別利益に計上し、建物の解体に伴う固定資産除却損等として6億21百万円を特別損失に計上いたしました。

#### ② 親会社株主に帰属する当期純利益

山梨アビオニクス株式会社の建物の解体に伴う固定資産除却損等の特別損失、繰延税金資産の回収可能性の見直しに伴う繰延税金資産の取崩し等による法人税等を計上したことから、前期比5億84百万円減少の22百万円の利益となりました。

#### ③ 資産合計

有形固定資産、投資その他の資産の減少等により、前期比10億89百万円減少の264億92百万円となりました。

#### ④ 負債・純資産合計

負債合計は短期・長期借入金金の減少等により前期比11億38百万円減少の174億62百万円となりました。また、純資産合計は親会社株主に帰属する当期純利益を計上したことにより、利益剰余金等が増加したことから、前期比48百万円増加の90億29百万円となりました。

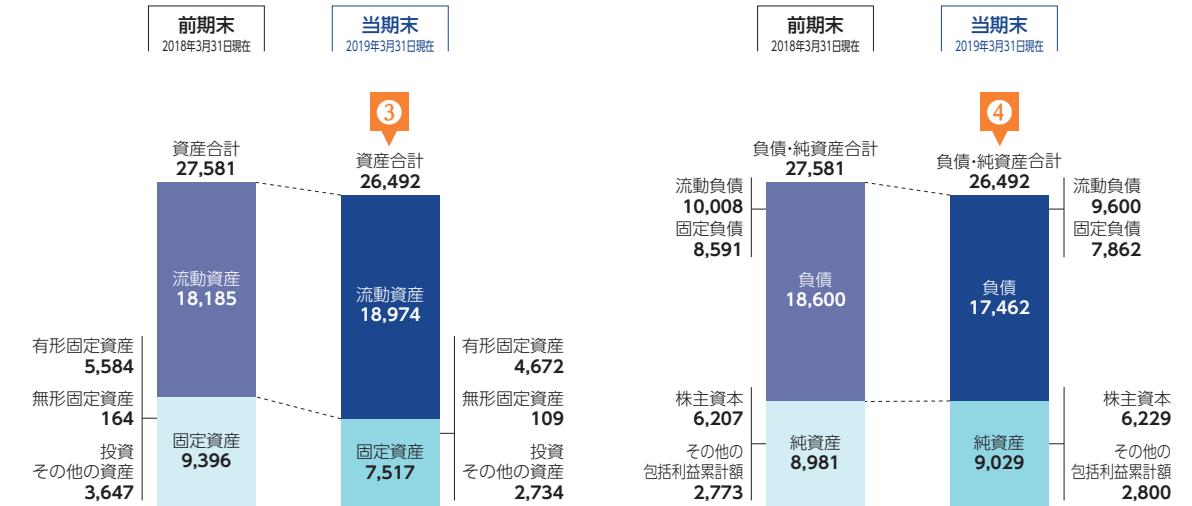
#### ⑤ 営業活動によるキャッシュ・フロー

主に税金等調整前当期純利益の増加およびたな卸資産の減少により、営業活動の結果獲得した資金は、27億37百万円となりました。

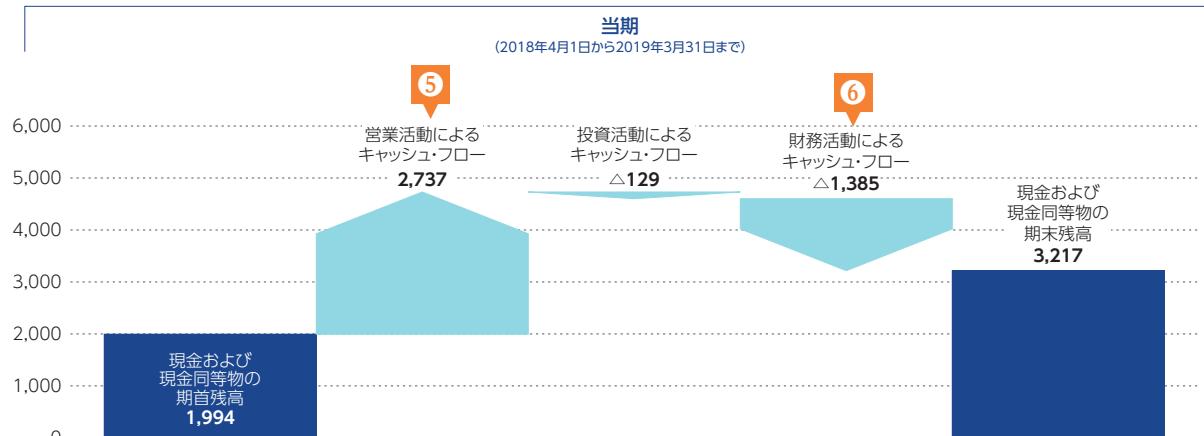
#### ⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

主に借入金の返済による支出により、財務活動の結果使用した資金は、13億85百万円となりました。

## 連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)



## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



	普通株式	第1種優先株式	第2種優先株式
(1) 発行可能株式総数 8,000千株	7,600千株	4,000千株	1,500千株
(2) 発行済株式の総数 5,130千株	2,830千株	800千株	1,500千株
(3) 株主数	3,325名	1名	1名

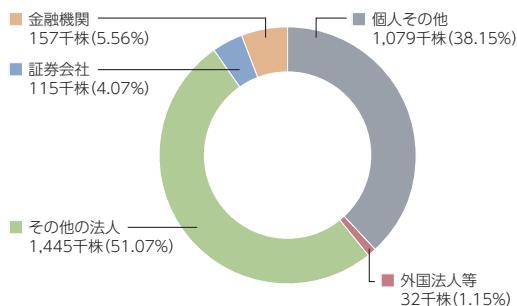
(注) 第1種優先株式および第2種優先株式は、日本電気株式会社 が全株所有しております。

(4) 大株主の状況 (普通株式上位10名)

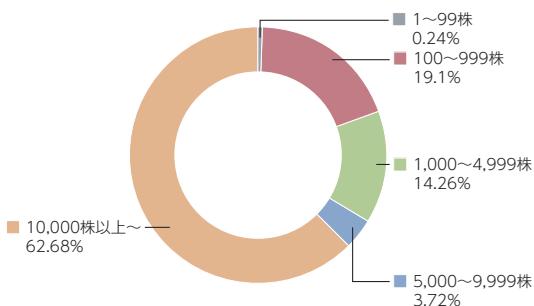
株主名	所有株式数 千株	持株比率 %
日本電気株式会社	1,415	50.11
楽天証券株式会社	52	1.87
株式会社三井住友銀行	44	1.56
日本アビオニクス従業員持株会	29	1.03
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	25	0.90
三井住友信託銀行株式会社	24	0.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	23	0.84
住友生命保険相互会社	21	0.77
株式会社SBI証券	21	0.75
上原昭夫	17	0.60

(注) 持株比率は、自己株式(5,982株)を控除して計算しております。

(5) 所有者別分布の状況 (普通株式)



(6) 所有株数別の状況 (普通株式)



(注) 自己株式(5,982株)を控除して計算しております。

## 会社の概況 (2019年3月31日現在)

■ 商号	日本アビオニクス株式会社
■ 英文商号	Nippon Avionics Co., Ltd.
■ 設立	1960年4月8日
■ 資本金	58億95百万円
■ 従業員数	817名(連結) 721名(単独)
■ 証券コード	6946
■ 拠点所在地 (2019年3月31日現在)	
本社	東京都品川区西五反田八丁目1番5号
横浜事業所	横浜市瀬谷区本郷二丁目28番2
新横浜事業所	横浜市都筑区池辺町4475番地 横浜市都筑区池辺町4206番地
中部支店	名古屋市中区丸の内三丁目17番6号
西日本支店	大阪市淀川区西中島一丁目11番16号
福岡営業所	福岡市博多区比恵町二丁目24番606号

## 子会社 (2019年3月31日現在)

■ 福島アビオニクス株式会社	
	福島県郡山市待池台一丁目20番地

## 役員状況 (2019年6月25日現在)

### 取締役

代表取締役	竹内 正人
取締役	上田 勇
取締役	秋津 勝彦
取締役	延岡 健太郎
取締役	望月 愛子
取締役	伊藤 茂樹
取締役	大久保 智史

(注) 延岡健太郎および望月愛子の両氏は、社外取締役であります。  
秋津勝彦、伊藤茂樹および大久保智史の各氏は業務執行を行わない取締役であります。

### 監査役

監査役(常勤)	鈴木 智雄
監査役(常勤)	篠田 亨
監査役	千原 真衣子
監査役	大貫 篤繁

(注) 鈴木智雄、篠田亨および千原真衣子の各氏は、社外監査役であります。

### 執行役員

執行役員社長	竹内 正人 ※
執行役員常務	上田 勇 ※
執行役員	新井 孝男
執行役員	橋本 隆
執行役員	山後 宏幸
執行役員	松木 徹
執行役員	中谷 直人
執行役員	井田 徹
執行役員	吉井 徹
執行役員	新屋 明彦

(注) ※の執行役員は、取締役を兼務しております。

## 株 主 メ モ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日  
その他必要のあるときはあらかじめ公告します。
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先)  
(電話照会先) 0120-782-031  
(インターネットホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
- 公告の方法 当社ホームページに掲載します。  
<http://www.avio.co.jp/ir/index.htm>  
ただし、電子公告を行うことができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

## 当社ホームページのご案内

ホームページにて最新のIR情報等をご覧いただけます。

<http://www.avio.co.jp/>

日本アビオ

検索



### 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

- 証券会社に口座を開設されている株主様  
⇒ 口座のある証券会社宛にお願いいたします。
- 証券会社に口座を開設されていない株主様  
⇒ 上記電話照会先をお願いいたします。

 日本アビオニクス株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田八丁目1番5号  
TEL. 03-5436-0600 <http://www.avio.co.jp/>

UD  
FONT

